



Umschlag: Rudolf Steiner 1917  
Fotograf: August Scherl, Berlin  
© Dokumentation am Goetheanum, Dornach

## ルドルフ・シュタイナー

1861年、オーストリア帝国のクラリエヴェックに生まれる（今日ではクロアチア）。ウィーンで自然科学を学ぶ。ゲーテ研究家、哲学者として出発。20世紀を迎える頃より、現代にふさわしい精神科学（霊学）を樹立するべく活動を続ける。シュタイナーの認識の道（アントロポゾフィー、人智学）はさらに芸術、社会運動にも発展した。特に第一次世界大戦の間には、ヨーロッパを大戦に導いた深い衝動を解明した。平和のプログラムとして「社会有機体三層構造」を唱え、この考えから、1919年にヴァルドルフ学校が誕生した。1925年、ドルナッハ（スイス）にて死去。

## 浅田 豊（訳・解説）

1952年神奈川県生まれ。東京でドイツ文学を学ぶ。その後、ドイツとスイスにおいてシュタイナーの治療教育を学ぶ。さらに、オイリュトミーとオイリュトミー療法を学び、チューリッヒ近郊の施設で20年間実践。ゲーテアナム書店勤務。現在はシュタイナー思想、社会論を研究しながら日本で講座を行う。アントロポゾフィー看護講座の通訳も務める。バーゼル在住。訳書：シュタイナー『個人と人類を導く霊のはたらき』『ゲーテ的世界観の認識論要綱』『アントロポゾフィー医学の本質』（共訳）など。

A5変型 本文128頁

2400円+税 ISBN978-4-903865-41-6

## 目次

口絵：シュタイナー自筆の「メモランダム2」草稿  
はじめに／メモランダム1／メモランダム2／解説  
付録（第一次世界大戦とシュタイナー／1919年春・シュトゥットガルトの日々／第一次世界大戦とナショナリズム／関連年表）／あとがき

Rudolf Steiner

Die beiden «Memoranden» von 1917

Der Erste Weltkrieg und der Impuls der sozialen Dreigliederung

# ルドルフ・シュタイナー 二つのメモランダム（覚書き）

——第一次世界大戦と社会三層化運動——

訳・解説 浅田 豊

国民生活を自立化し、連邦化するという意味に於いて、  
完璧な自由のまえにたじろいではいけない。

軍事・政治的なものは直接に地理に依存し、

経済的なものは地理的・日和見主義的（機会主義的）な  
状況に依存している。

しかし人間自身の中にその衝動を持つ、生活の領域は、  
それらに直接には依存しない・・・

この領域の形成は、国家的なものから自由が生み出されるものではなく、  
自由から国家的なものが生み出される時のみ、

健康な仕方できり得る。

（「メモランダム」より）

ウッドロー・ウィルソンの「世界を平和にして民主主義をもたらそう」

というスローガンに対して、ルドルフ・シュタイナーは、

「社会の三層化を実現して平和をもたらそう」と主張しました。

これは社会運動としては挫折しますが、この中から生まれたのが、  
自由な精神生活を実現しようとする「自由ヴァルドルフ学校」です。

今から100年前のシュタイナーの社会改革のビジョンは、

今日の社会問題を解決する鍵になるのではないのでしょうか。

（浅田 豊）

知られざる「メモランダム（覚書き）」の存在に

日本で初めて光が照射される・・・

シュタイナーが時の政権・指導者に宛てた提言

——未来に結実する、新しい時代の社会論が描かれています。——

株式会社 涼風書林

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 1-14-16

Tel/Fax 03-3710-5160

URL : <http://www.kirisutoshakyodotai.org/ryofu.html>

E-Mail : [ryofu@kirisutoshakyodotai.org](mailto:ryofu@kirisutoshakyodotai.org)

涼風スペース : <http://ryofu-shorin.jimdo.com>

郵便振替口座 : 00180-1-356521